

国立保健医療科学院 公開シンポジウム 2024

日時：令和6年12月18日(水) 13:30～16:55

ハイブリッド開催(会場+オンライン)(オンデマンド配信有り)

会場 国立保健医療科学院 別館棟5階 講堂

テーマ

公衆衛生と水 過去、現在、そして未来

東日本大震災、能登半島地震など大きな災害が頻発する中、地域の公衆衛生基盤は人口減少や働き手の減少に見舞われ、基盤施設の老朽化にも直面している。折しも今般の令和6年4月の業務移管により水道行政の所管が国土交通省と環境省に変わり、災害時の対応などスキームが大きく変更となった。国立保健医療科学院では、公衆衛生の一環として長く水の安全性確保に関する研究・研修、行政支援を実施してきたが、これまでの知見を振り返ると共に、今後の連携の方向性を考える。

プログラム(敬称略)

開会挨拶 曾根 智史(国立保健医療科学院 院長)

司 会 本間 義規(国立保健医療科学院 統括研究官)

基調講演 「健康」を支える衛生・水道工学の道程
眞柄 泰基(全国簡易水道協議会 相談役)

特別講演 行政移管と危機管理対応
名倉 良雄(環境省水・大気環境局 総務課長)

休 憩

話題提供 1 水道の災害状況と対応
増田 貴則(国立保健医療科学院 統括研究官)

話題提供 2 災害時の基幹施設への給水確保
島崎 大(国立保健医療科学院 生活環境研究部 席主任研究官)

話題提供 3 水質事故と保健行政との連携
浅見 真理(国立保健医療科学院 生活環境研究部 席主任研究官)

話題提供 4 水質基準の改正等のためのエビデンスの提供
小坂 浩司(国立保健医療科学院 生活環境研究部 席主任研究官)

総合討論・質疑応答

座 長 浅沼 一成(国立保健医療科学院 次長)
眞柄 泰基・名倉 良雄・増田 貴則・島崎 大・浅見 真理・小坂 浩司

閉会挨拶 浅沼 一成(国立保健医療科学院 次長)

参加無料
事前申込制

申込み開始 11 月初旬

申込み締切り 12 月 13 日(金)

主催



国立保健医療科学院

〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6

お問い合わせ 総務部研修・業務課

TEL: 048-458-6116

申込みは科学院トップページまたは、こちらから

<https://www.niph.go.jp/topics-sympo/sympo20241218/>





講演概要紹介

全国簡易水道協議会 相談役

眞柄 泰基

安全で十分な水の確保は、公衆衛生の基本である。旧国立公衆衛生院の水道工学部長、WHOの専門委員、北海道大学教授等を務め、多くの施策の基礎を形作った経験から、水道に関する施策を振り返り、移管を踏まえた現状の課題、そして今後の方向性を考える。

環境省 水・大気環境局 総務課長

名倉 良雄

水道の基盤強化に関する行政移管の背景と災害対応の変化、健康危機管理実施要領、衛生対策要領の位置づけについて、公衆衛生、保健所との関係も含め概説する。

国立保健医療科学院 統括研究官

増田 貴則

能登半島地震などの災害の発生状況と対応について、課題を共有する。

国立保健医療科学院 生活環境研究部 上席主任研究官

島崎 大

災害時には病院等基幹施設への給水の確保が極めて重要である。水道事業体と病院等の連携が進み、合同訓練なども行われるようになってきた。その現況を共有する。

国立保健医療科学院 生活環境研究部 上席主任研究官

浅見 真理

神栖地下水ひ素汚染事例、東日本大震災、利根川ホルムアルデヒド前駆物質流出などこれまでの水質事故において国立保健医療科学院が保健行政と連携して対応した事例を振り返り、今後の連携のあり方を考える。

国立保健医療科学院 生活環境研究部 上席主任研究官

小坂 浩司

現在関心が高いPFASをはじめ、水質基準や関連項目等の改正やその対策等に資するエビデンスを取得、収集、解析した事例を紹介し、一層の充実に向けて考察する。

※来院又はオンラインで御参加できない方のために、後日オンデマンドで配信予定です。

※オンラインで御参加の場合は、Zoomの使用が可能なPC、タブレット、スマートフォンが必要になります。

※講演内容等につきまして、事前の予告なしに変更となる場合があります。